

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
個人研究
2013 年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名
	文学部・准教授	山下 王世 印
研究課題	長野県でのカナダ聖公会の宣教における聖堂建築の意義	
研究期間	2013 年度	
研究経費	(支出金額) 979 千円 / (採択金額) 979 千円	

研究の概要 (200~300 字で記入、図・グラフは使用しないこと)

本研究は、19 世紀末から 20 世紀初め、カナダ聖公会による宣教を受けて長野県内に建設された日本聖公会教会堂の建築史的価値を明らかにすることを目的とした。2013 年度は、現地調査にて、教会堂の実測調査、教会堂や教区センター所蔵の史資料の収集、修理の履歴に関する聞き取り調査、調度品類調査を実施した。さらにこれら現地調査で得られたデータや知見を整理し、とりまとめを行った。これによって、本研究で対象とした 10 棟の教会堂の全体的な建築的特質を把握することができた。加えて、宣教の過程や宣教師の教会堂建設への関わり方についても明らかになりつつある。とりわけ松本聖十字教会からは、複数の重要な史資料が発掘されたため、その詳細の検討を可及的速やかに開始し、(1)旧松本聖十字教会堂の建設年代、(2)旧松本聖十字教会堂から現在の松本聖十字教会堂への移築の経緯、(3)現松本聖十字教会堂内に存在する旧教会堂の痕跡、以上 3 点について、年度内に日本建築学会で公表することができた。さらに岡谷聖バルナバ教会については、創建と宣教師の関わりや、教会堂の修理の履歴についての考察を、2014 年夏に同学会で口頭発表を行う予定である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[教会建築] [建築史] [聖公会]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1. 研究開始当初の背景

長野県における日本聖公会教会堂の大半は、80年以上の築年数を有する。一部には保存や建替えが議論され始めている教会堂があるものの、方針は定まりづらく、その対応はまだ万全とはいえない部分がある。聖堂の保存、あるいは建替えという方針の決定は、建築的価値を調査し、慎重に検討を重ねた上でなされることが望まれるが、残念なことにこれらの教会堂はこれまでのところ、建築調査の対象とされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、カナダ聖公会宣教師たちがその建設に深く関わったとされる、長野県内の日本聖公会聖堂全10棟を詳細に調査することによって、宣教活動において聖堂の建設がどんな意味をもち、建設に関わった宣教師や信徒たちがどのような場とすることを目指し、何を表現しようとしたのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

長野県における聖公会教会堂の全体像を把握するため、各教会において、(1)目視と実測による教会堂現況調査、ならびに(2)教会ならびに中部教区センター所蔵の史資料収集、調度品類の調査を実施し、それらの取りまとめを行った。

4. 研究成果

(1)調査内容

A. 目視と実測による現況調査

現地調査では、現状を把握するために、教会堂の実測調査を行い、得られた実測データをもとに、図面作成を行った。また、創建時以降に行われた修理や増築箇所の特定制作も行った。教会堂の修理の履歴については、教会関係者への聞き取りや、教会でこれまでに作成された記念誌類に記載された情報、関係した建設業者からの聞き取りを行った。

B. 教会所蔵の史資料調査、調度品類の調査

教会所蔵の史資料については、各教会にどのようなものがあるのかをひとつひとつ調査した。所蔵資料の量や質は教会によってかなり大きな差があるものの、多くの教会で創建当時または創建から間もない頃の写真資料が所蔵されていることが分かった。創建当時の図面については、松本聖十字教会でのみ所蔵が確認された。これは1910年創建の松本聖十字教会が1957年という戦後に移築され、その時点で資料整理と保存がなされたという事情が奏功していると考えられる。一方、中部教区センターの資料室では、飯田聖アンデレ教会堂の平面図を入手することができた。

加えて、とくにチャンセル(内陣)を主とする教会堂内の調度品類、説教壇、祭壇、主教座、洗礼盤、オルガン等を対象にデータベースの作成を行った。各調度品について、写真撮影と実測を行い、基本情報とともにデータベースに整理してみると、異なる教会堂に、同じ製作者による作品と推測される調度品があることが分かってきた。聖堂建設時における各教会間の協力関係を知る手がかりになりうるので、今後、調度品類の製作者やその過程についてさらなる調査を行っていく予定である。

以上の現地調査からまずは、長野県の聖公会教会堂の全体的傾向を把握することに努めた。次に、各教会に関する具体的な考察を開始した。とくに史資料が十分に揃っていることが確認された松本聖十字教会と岡谷聖バルナバ教会から分析作業を開始することにした。2013年度は、両教会堂について、創建時の状況、現在に至るまでの修理や移築の経緯、教会堂の建築的価値を明らかにすることができた。

(3)成果

長野県の聖公会教会堂は、構造においてもまたデザインにおいても、一様ではない。ウオーラー司祭が深く関わったレンガ造の長野聖救主教会堂には、西洋の教会の美を日本に伝えようとする意図がこめられていた一方で、木造の中でもとくに和風意匠を採用した上田聖ミカエル及諸天使教会や「おだやかな日本風」をコンセプトとした岡谷聖バルナバ教会堂では、日本の社会になじもうとする気遣いがみられる。各教会がそれぞれの地域とつながろうとするときの手法はひとつではなく、多様な方法が試行されたといえる。以下は2013年度に取り組んだ松本聖十字教会と岡谷聖バルナバ教会に関する詳細報告である。

研究成果の概要 (つづき)**A. 松本聖十字教会**

松本聖十字教会については、まず、松本聖十字教会に属する諸施設群が、複数の別の敷地から開智へ統合される歴史的経緯を明らかにすることを試みた。それにより、以前の敷地から開智へ移築され、さらに増築または改造が加えられた建物は、教会堂と聖マリア館であることが分かった。ただし、聖マリア館は、塩竈神社西から新田町へ移転する際には新築されたと考えられ、継続性はない。また、新田町に新築された聖マリア館は、開智へ「改造移築」されたと記録されているが、新田町の聖マリア館の図面資料が見つかっておらず、改造移築の内容の検討は現在のところ難しい。

一方、教会堂については、大名町の旧教会堂が、騒音と狭隘を理由に、開智へ移築、ならびに増築された。旧教会堂は、1907年以降1913年頃までの創建である可能性が高く、1957年の移転時点でも40年以上の築年数を有していたことから、他の施設群と同様に新築するという選択肢も十分に考えられたはずである。しかし松本聖十字教会では、移築して騒音を解消し、さらに狭さを解決するために増築するという手法が選ばれた。このことは、移築時に旧教会堂の伝統を受け継ごうという意思が強く働いていたことを示唆している。

次に、現地調査で得られた史資料と実測データをもとに、現存する松本聖十字教会堂における、旧教会堂からの移築の痕跡を探ることを試みた。これによって現存する松本聖十字教会は、ベストリーと前室を除いた旧教会堂の主要な部分を内包していることが明らかとなった。

これまで松本聖十字教会堂は、チャンセルにある調度品類の精巧なつくりやシザーズトラスが架かるダイナミックな礼拝空間に比べて、モルタル塗り仕上げの慎ましやかな外観からか、建築史研究の対象にされたことはなかった。しかし本研究の考察によって、現存する松本聖十字教会堂のチャンセル、袖廊、身廊といった主要部分は、松本市大名町に創建されたと考えられる旧教会堂がほぼそのまま移築されていることが明らかになった。旧教会堂は、カナダ人宣教師らによる伝道初期の松本に初めて建設された、聖公会宣教史の上でも意義深い建造物である。これらの歴史を取り込み、そしてまた現代に伝える松本聖十字教会堂は、大変貴重な建造物である。松本聖十字教会にとって、移築された1957年が重要な年であったことは間違いのないが、それと同時に、旧教会堂の創建年、1907年以降1913年頃も重要な意味をもつ。現松本聖十字教会は、ほぼ100年の歴史をもつ教会堂として捉えられることが望ましいといえる。

B. 岡谷聖バルナバ教会

岡谷聖バルナバ教会堂については、修理の履歴の整理を行ったところ、創建から85年余り経過するものの、全体的に良好な状況で遺されていることが分かった。具体的には、内部引き戸、窓枠、入口扉が、創建時のデザインや色と異なるものに取り替えられたが、これらは軽微な改変であり、いずれ創建時のデザインや色に戻すことが十分に可能である。

最近の修理では、2009年の折り上げ天井の取り外しや、2012年の外壁色の回復というように、創建時の状態に戻すことが意識されており、この姿勢は評価される。ファサード(南面)、西面、北面の壁体には、1968年および2012年に覆われた新しい外壁材の下に、創建時ならびに小火直後の1961年の下見板張りが残されている可能性がある。幸い、創建時の下見板張りや漆喰壁がのこる東側の壁は良好な状態にある。今後の修理では、オリジナル部分の特定と、創建当時の写真の検討を行って、創建時の状態に着実に戻していくことが重要である。

岡谷聖バルナバ教会は、コーリー司祭らの取り組みにより、製糸工場で働く若年女性労働者たちを支えるために創建され、その役割をはたした点で、岡谷製糸業の歴史の一端を担う遺産といえる。その「おだやかな日本風」ファサードは、外来の宗教文化が地方都市に根をはるための工夫から生まれ、この地域と時代に特有のものである。キリスト教宣教と地域産業の歴史から生まれた岡谷聖バルナバ教会堂は、地域の記憶を伝える存在として、今後も保存されるべき建築である。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

[雑誌論文] (計3件)

- ・ 山下王世「長野県北信・東信地方における日本聖公会の聖堂」『2013年度大会(北海道)学術講演梗概集』日本建築学会. 2013年. pp. 919-920.
- ・ 山下王世「松本聖十字教会の敷地移転の経緯 長野県における日本聖公会教会堂に関する調査報告(1)」『2013年度(第84回)日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』日本建築学会. 2014年. pp. 521-24.
- ・ 山下王世「松本聖十字教会堂における旧教会堂からの移築部分 長野県における日本聖公会教会堂に関する調査報告(2)」『2013年度(第84回)日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』日本建築学会. 2014年. pp. 525-28.

②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

なし

③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)

なし

④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

[学会発表] (計4件)

- ・ 山下王世「長野県北信・東信地方における日本聖公会の聖堂」2013年度日本建築学会大会学術講演会. 2013年8月31日. 於: 北海道大学.
- ・ 山下王世「松本聖十字教会の敷地移転の経緯 長野県における日本聖公会教会堂に関する調査報告(1)」2013年度第84回日本建築学会関東支部研究発表会. 2014年2月21日. 於: 日本大学.
- ・ 山下王世「松本聖十字教会堂における旧教会堂からの移築部分 長野県における日本聖公会教会堂に関する調査報告(2)」2013年度第84回日本建築学会関東支部研究発表会. 2014年2月21日. 於: 日本大学.
- ・ 山下王世「岡谷聖バルナバ教会堂の修理歴 長野県における日本聖公会教会堂に関する調査報告(3)」2014年度日本建築学会大会学術講演会. 2014年9月12-14日. 於: 神戸大学. (原稿提出済み)

[研究報告書] (計1件)

- ・ 山下王世『長野県における日本聖公会教会堂調査 第1次調査報告: 松本聖十字教会』2014年3月. 60頁.